

2025／11／16 津高東京同窓会「輪番幹事会」記録

日 時 2025 年(令和 7 年)11 月 16 日 14:30~16:00
場 所 品川区・品川第一区民集会所(第 1 集会室)
出席者 昭 51 年卒 佐藤康子、谷本智彦、坪香かよ子、中村智子
(27 名) 昭 52 年卒 正岡文人
昭 53 年卒 石橋万樹、北口久乃、小柴良介、武 行美、田中紀美子、
富田幸子
昭 62 年卒 坂本浩一、永橋信隆、吉村かつら、勝美仁彦、白木光彦
昭 63 年卒 大塚真弓、倉田 徹、ケスラー理世
事務局 西村修一、吉田万里子、中川法子、伊藤俊一、田中成幸、
神戸洋史、森田和久、清水徹

(以上、敬称略)

第 1. 同窓会のテーマとイベント企画

(1) 方向性

過去 2 年間はテーマを設けず歓談中心だったが、今後は新しいテーマやイベントを自由に企画して良い。過去の形式を踏襲する必要はない。

(2) 企画案

著名な卒業生(エミー賞受賞者、音楽家など)や、旬な話題を持つ人物(航空管制官、大河ドラマ時代考証担当者など)を招いた講演会。オンライン参加も検討。

例) 薬学部の先生による「スイッチ OTC」に関する講演。

アマチュアバンドの演奏(費用面の懸念あり)。

テーブル対抗のクイズ大会(名古屋・大阪の同窓会での実施例)。

但し、過去のテーマについて、「分かりにくい」との指摘があり、良いアイデアが出にくい状況。

第 2. 同窓会運営のスケジュールなどについて

(1) 全体スケジュール: 1 月、3 月、5 月、7 月、8 月、9 月(本番)、11 月(反省会)と続く。

(2) 招待する先生の決定:

案内状に写真付きで掲載すると参加率が上がる傾向がある。

3月頃から候補者選定を開始し、6月中には本人の了承を得る必要がある。

(3) 案内状の作成・発送:

輪番幹事が担当し、7月12日までに原稿を完成させる。

8月2日に約1,500通の案内状を発送。30人程度の協力者が必要。

(4) 連絡体制の構築:

各学年代表が中心となり、個人のメールアドレスリストを作成・共有する。

この機会に学年内の組織を強化し、横のつながりを広げることが重要。

第3. 運営体制と役割分担

(1) 報告書の作成について

参加できなかった人への情報提供や、次回の参加促進に繋がる重要なツール。写真を多く掲載することが望ましい。

2025年の同窓会については、記録係3名、写真係2~3名の複数人体制をとったが、報告書の内容の質を高める上で有効であると確認された。

(2) 受付業務

協賛品提供者が分かるよう、事前に共有されるリストに印をつけることで、当日の対応をスムーズにする改善案が出された。

(3) 機材について

記録用のボイスレコーダーやカメラは事務局の備品ではなく、現状は参加者個人の機材で対応している。

(4) 予算と会場、食事形式

①コロナ以前の会場での会費7,000円では赤字が出る。損益分岐点は8,600円と試算されている。

②約150人の参加があれば開催当日の赤字は回避できる見込みだが、案内状郵送など開催準備費用に相当する約20万円の寄付がないと運営が厳しい。

③会場については、来年および再来年の9月第2日曜日に私学会館を予約済み。

④食事形式については、現状、ビュッフェ形式をとっている。ビュッフェ形式については、コストメリットがあるものの、並ぶ必要があり、後から来た人が食べられない可能性がある。

他方、個食方式をとると、全員に確実に食事が行き渡るが、キャンセル時の費用回収リスクが高い。

折衷案として、一部の料理（寿司など）をテーブルごとに提供したり、サンドイッチなどを各テーブルに配置する案も挙げられた。

第4．次の予定（アクションアイテム）

- (1) 各学年の代表者は、メンバーのメールアドレスリストを作成し、12月末～1月18日までに提出してほしい。
①招待する先生の候補者を目処付けする（3月頃まで）。
②招待する先生を決定し、本人の了承を得る（6月中まで）。
③案内状の原稿を完成させる（7月12日まで）。
④7月、8月、9月（本番）の出席確認を行う。
- (2) 次回会議（1月18日）までに、イベントのテーマ案（テーマ不要論も含む）、出し物を各自検討する。

以上